

〈金沢支部〉
地域社会との交流と学生支援
 ——金沢大学社会貢献室の取組——

住民と息の合った活動を

地域社会の一員である大学が、地域社会に対して何か貢献できないか——そんなねらいで平成一四年、金沢大学は「社会貢献室」を設置し、精力的な活動を始めた。

市街中心地で公開講座や大学の情報発信を行う金沢大学サテライト・プラザの運営、小中学校への出前講座や学生がチューターとして学習支援などの初等中等教育支援事業、子育て支援事業として相談室の設置や講演会の開催、生涯学習の推進など枚挙にいとまがない。

一段と目を引くのは「角間の里山自然学校」である。金沢大学角間キャンパスのおよそ三分の一を「里山ゾーン」に指定し、教育研究活動に利用すると同時に、地域住民に開放し、自然体験や生涯学習のフィールドとして活用している。活動は野鳥観察会、竹林整備、竹炭焼きなどユニークでバラエティーに富んでいる。この活動の中心になつてい

るのが「角間の里山メイト」と呼ばれる市民サポーターだ。メンバーは、四〇〇名を超えており、毎月二回の定期活動には、一〇〇名近い市民が参加することもある。

地域住民が大学に期待しているものは何だろうか——それを把握しようと開催されているのが「タウンミーティング」である。県内各地を回り、直接住民の

声を聞いている。地域住民からの要望は多様だが、その中でも特に学生との関わり合いを求める声が多い。学生の地域活動への参加や地域をフィールドに調査研究をするなど積極的に地域に溶け込んでいくことが望まれている。

社会貢献室では、学生との交流を求める地域のニーズにも応えようと、学生の社会貢献への参加を促す活動も企画・実施している。



学生編集委員が作る広報紙

「広報紙づくりの基本が学べる!」「大学の広報業務を体験できる!」「名前を残せて、就職活動に役立つ!」——学生編集委員募集のチラシには、地域貢献情報誌作成参加のメリットが目いっぱい書かれている。

社会貢献室では地域貢献情報誌「地域とともに」を発行し、金沢大学の社会貢献・地域交流活動を取材・掲載し情報発信している。地域と大学の関係作りを進め、地域交流の活性化・新たな地域連携事業の創出が目的だ。

作成にあたっては教職員と学内公募で集まった八人の学生編集委員で編集委員会を組織し、企画・取材・編集を行っている。学生を参加させることにより、多様な視点ととらえた誌面作りを行い、学生と教職員や学生と地域の交流を深め、自主性・企画力のある人材を育成するねらいがある。

学生自身にとっても貴重な体験となる。毎週一回の編集会議では、出版・マスコミ業界の実務者を招き指導を受けている。プロの指導を受けながら、大学の広報業務を知ることができ、就職活動の際の

大きなポイントとなる。さらに、大学の社会貢献・地域交流活動についても理解を深めることができるのである。

こうしてできあがる「地域とともに」は二〇ページで、年二回、一〇月と二月に発行される。部数は五〇〇〇部で、県内自治体や図書館などの公共施設などに配布する。

学生放送局「web・KURS」でニュース発信

学内の情報をできるだけ広く周知し、併せて学生を育てていく——社会貢献室では学内のIPネットを利用して、「ミニ放送」を行うことにしている。

番組制作から放送まで、学生主体に行うこのミニ放送を「web・KURS」と名付け、一〇月の放送開始を目指している。内容は社会貢献ニュース・学生ニュース・生協ニュースの三本柱で、毎週火曜・金曜の昼に一五分番組を生協食堂で放送し、学生に社会貢献活動への参加を呼びかける。

学生アナウンサーの育成には、金沢大学OGの元民放アナウンサーが夏の集中講義を含め一五回の講義を行い、発声練習や原稿練習などの指導を行う。

就職活動に役立ててもらおうほか、地域貢献・地域交流の重要性などを知ってもらおう。就職支援・人材育成を兼ねた取組となつていく。